

## 令和4年度 荒尾市総合計画審議会 議事録要旨

- 【日 時】 令和4年8月22日（月） 14:00～16:00
- 【場 所】 荒尾市役所 11号会議室
- 【出席委員】 8ページを参照
- 【事務局】 石川総務部長、松村市民環境部長、片山保健福祉部長  
北原産業建設部長、末永総合政策課長  
林田政策推進室長、丸本、伊藤

記録者：総合政策課 丸本

## 1. 開会

末永課長が開会を宣言し、配付資料の確認を行った。

## 2. 委嘱状交付

委員に委嘱状の交付を行った。

## 3. 会長・副会長の選任

荒尾市総合計画条例第7条第1項により、互選にて会長及び副会長を各1名置くこととなっており、会長に荒井委員、副会長に高木委員が選出された。

## 4. 会長あいさつ

荒井会長があいさつを行った。

第6次荒尾市総合計画の成果検証については、委員の皆さまには行政の取り組みを見守っていただきながら、場合によっては厳しいご意見もいただきたいとお願いしているところである。今年も進捗状況がどのようになっているか報告を受け、短い時間ではあるが、忌憚のないご意見をいただきたい。

## 5. 議事

荒尾市総合計画条例第8条第2項に基づき会長が議長となり、荒井会長が以降の議事を進行した。

### (1) 総合計画の政策体系及び推進体制について

丸本が、資料1-1及び資料1-2に基づき説明を行った。特に質問等はなかった。

### (2) 令和3年度成果検証結果及び改善方針（案）について

丸本が、資料2に基づき説明を行った。主な意見等は以下のとおり。

#### 《主な意見等》

- 保育士家賃補助事業はどこで周知しているか。

→事業内容としては、本市に転入して市内の保育所や認定こども園等に勤める保育士を対象に、家賃の半額を補助するものであり、上限が25,000円、補助期間が3年間となっている。制度の活用者は、昨年度末時点で累計7名である。周知の状況としては、市のホームページや市内の各保育所等を通じて行っている。また、保育士不足が課題となっているため、このような制度を利用して、本市で働き、住んでいただけるように取り組んでいる。

(事務局)

→誰か相談に来られても制度の紹介ができるよう、ぜひ宅建協会と連携していただきたい。

- 父親の禁煙チャレンジ事業において、完全に禁煙することは難しいところもあるため、分煙についての内容も盛り込んだ方が実績は上がると考える。  
→事業の趣旨としては、これからパパになる人へ向けた教育の一環として行っているものであり、喫煙の影響を理解して子育てを行ってもらえるよう、啓発していきたいと考えている。(事務局)
- 認知症サポーター養成講座によりサポーターを養成し、それが実際に役立っているのかが疑問である。認知症の人の見守りは、家族だけでなく地域で見守る必要がある。井手川地区では、認知症で徘徊する人を見守る組織を作っている。サポーター養成後は、組織化して、市全体で見守っていければ地域の安心安全につながっていくと思う。  
→地域で見守っていける体制が整えられるのは、一番の理想だと思う。認知症サポーター養成講座は、認知症の症状や対応の仕方を理解してもらい、サポートしてもらうことを広げていくことが目的であるため、今後、地域での見守りを組織化できるよう、ご意見を参考にしながら進めていきたいと考えている。(事務局)
- 生活困窮者は今後も増加する可能性があり、更に障がいがある人は働く場がなかなか見つからず困っている。このような人々への対応策は何かあるか。  
→生活困窮者については、コロナ禍において仕事なくなるなどの様々な要因があり、それによって虐待や自殺などの大きな問題に波及している。市としては、それらの問題に対応するため、生活相談支援センターで対応するようにしているが、市役所のどこの窓口に来られても相談者の話を聞いて対応できるようにしている。また、インターネットが使える環境があるならば、質問事項に答えていくと受けられる可能性がある給付制度などを案内する、「生活あんしんサポート」という機能も導入している。周知が行き届いていないところはあるが、あらゆる点で、対応できる体制は整えている。(事務局)  
→広報等を活用し、積極的に市民に対し周知を図っていただきたい。
- KPIの実績を見ると、障がい者への理解が進んでいないようだが、荒尾市では障がい者の社会参加が行われていない

のではないか。例えば、スポーツ面など、同じステージで交流を図るということを今後とも続けていただきたい。

- ポリテクセンターにて実施している荒尾の「いきいき企業」紹介事業では、就職支援をするにあたり、荒尾市にどれぐらいの数の企業があるか、企業の魅力などを伝え、荒尾市内における就職を推進している。市ではホームページやYouTubeを活用した企業紹介がなされており、訓練受講者の就職支援にかかる効果的な取組みであると、就職支援アドバイザーからも評価いただいている。市での取組みは信頼感もあるため、充実させて多くの企業がアピールできる機会を作っていただきたい。
- 私の仕事は、小代焼という伝統工芸品を作りながら、弟子を育てている。弟子を育てるには最低4～5年かかり、給料を支払いながら技術を教えている状況であり、伝統工芸の技術を継承していくために、市からの補助があると助かる。
  - 市内の伝統工芸を守るためにどのような支援ができるか検討していきたい。(事務局)
  - また、弟子を育てているが、働き方改革により負担を感じているため、その点についても検討いただきたい。
  - 大工や左官等の職人も不足しており、人材育成をする人も不足している状況である。補助金等により、職人を育てるための方法を教えていただきたい。
  - 人材育成が重要である。給付型にするのか貸付型にするのかはあるが、人材育成の観点からは、何らかの形で市から補助できるよう、関係部署にて検討いただきたい。
- 漁業者も後継者問題が発生しており、後継者を確保するため様々な手段を検討し、マガキ養殖の実証に着手した。会社を退職したら養殖をやらせてほしいと希望者も現れた。一方で、海苔の養殖については2名が撤退され、歯止めをかけるため、後継者の育て方や海苔の魅力を伝えるために様々な案を考えているが、なかなか良い案が浮かばない。市での支援の検討もお願いしたい。
- 災害ボランティアとして来られた人が、転勤で荒尾市に移住したが、荒尾市は買い物が便利で病院も多いので、非常に住みやすいと話された。移住を考える上で重視される、日常生活での買い物の利便性、地域の医療体制に関して、荒尾市は他自治体に見劣りしないと思う。リモートでの仕事が行える企業に対しアプローチすることで、移住者を呼

び込むことができるのではないか。

→企業等へのアプローチについて、今後の取組みの参考にさせていただきたい。また、本市でも、お試し暮らし体験住宅を用意しており、実際に住んでいただき暮らしやすさを実感してもらい、移住につなげる取組みも行っているところである。(事務局)

- 昨今はテレビでも移住に関する番組が取り上げられている。いかに関係人口や交流人口を増やしていくかがポイントになるが、そのためには地域の魅力度アップが必要である。景観も大事だが、生活のしやすさも魅力であり、プレゼンテーション力が重要になってくる。
- 全国学力学習状況調査において、小学校は全国平均以上だが中学校は全国平均以下だった。荒尾市に若い人を呼び込みたくても、学力が低い荒尾市に来てくれるのか。高校生が小学生に勉強を教えるなど、子どもたちと子どもたちのつながり、そして若い人や高齢者も加わるような仕組みづくりが必要だと考える。教育分野だけではなく、移住環境にも関係があるため、横のつながりを意識して取組みを考えると、移住者が増えるのではないか。
- まちづくりアンケートの「荒尾市が暮らしやすいと感じている市民の割合」の、満足していない理由は何か。  
→日常生活の不便性を感じている人もいるが、一番多い理由としては「働く場が少ない」である。次に「高校や大学等進学場が少ない」で、他には「地域活動の負担感」等が挙げられている。やはり一番多いのは、仕事面と教育面である。(事務局)  
→荒尾市の未来を考えると、それらの課題を今後どのように改善していくのが一番重要である。
- 避難行動要支援者の個別計画の策定状況を伺いたい。  
→件数については所管課に確認しなければ分からないが、2年前に災害の被害が大きかった地区をモデル地区として策定を進めているところである。(事務局)  
→個別計画そのものが既に現状に合っていないと思われる。高齢者が多く、若い人も共働きで支援する人がいない状況であり、例えば、支援隊というような組織を作ってその人たちに支援をお願いすることも1つの選択肢ではないかと考える。  
→まずは個別計画の策定に取り組んでいきたい。状況が変化していくため、スピード感が重要だと考えている。(事

務局)

- 移住定住に関して県では、東京都、大阪府、福岡県にある県の事務所とも連携しながら、力を入れて取り組んでいる。玉名地域振興局では、荒尾市を含む2市4町で取り組んでおり、自治体単体ではなく荒尾玉名地域全体の魅力を知っていただき発信することで、移住者を呼び込もうとしている。  
また、資料の作り方について、「主な成果」の内容は、成果ではなく取組内容になっているものもあるため、成果として何がどう変わったのかを書く必要がある。「主な課題と改善方針」の内容についても、個々の取組みの細かいことを書いてあるが、事業レベルではなく施策レベルで整理することが望ましい。
- 地域の魅力の掘り起こしと発信が大切である。商業施設に市立図書館を設けるといふ、とても良い試みをされており、他にも小代焼をはじめとする魅力がたくさんある。また、遊園地やゴルフ場などが立地することから、市の人口に比較し、観光入込客数の多いことはもっと活かすべき条件と思う。荒尾市を訪れた人々にはさまざまな発見がきっとある。魅力の発見がなければ、移住にも結びつかないと思う。そのため、地域の魅力情報をしっかり発信していくことが必要である。荒尾市を訪れた人が、体験や感動を気軽に発信できるような仕組みを整えばと考える。
- 大学で発達障害を専門にしており、荒尾玉名地域の教育現場を巡回しているが、現場を見ても、学力の低下は懸念される。学校が努力するだけでなく、もっと市と連携して政策を考え、教育環境と働く場を充実させなければ、市が行う様々な政策も効果が出てこないと考える。また、障がい児とのボーダーラインの子どもに対する先生方の対応の仕方について、教育現場で問題となっている。その点についても、学校だけでなく市も子育て支援の立場で、どのような支援ができるか検討いただきたい。
- 委員の皆さまの意見を聴き、それぞれの事業が単体ではなく、他部署の事業と関係していることから、総合的に、また、全体を見ながら連携して政策を検討する必要があると感じた。  
また、資料の作り方として、KPIを設定する上での目的や説明が不足しており改善する必要があるものの、検証結果について、委員の皆さまから貴重なご意見をいただくこと

ができたことは良かった。

### (3) 地方創生推進交付金事業の効果検証結果について

林田室長が、資料3に基づき地方創生推進交付金事業の効果検証結果について説明した。特に質疑等はなく、最後に全体的なことに関し、委員から意見がなされた。主な意見等は以下のとおり。

#### 《主な意見等》

- 主な成果や課題及び改善方針等については理解した。市民全体で、総合計画の目標達成に向け活動することが重要だと考える。これらの取組みを、市民対し共有することで市民の活動の動機付けになると考えられるため、広報で本日の検証結果を掲載し、市民の意識高揚を図っていただきたい。また、各地区においても、総合計画や地区別計画と一貫性をもたせた取組みを行っていただきたい。
- おもやいタクシーは、SDGsを踏まえ、電気自動車やGPS、AI、スマートフォンを使い、乗合タクシーとしてタクシーをシェアして行われている事業である。しかし、今のところ2台で運行しており、利用者の待ち時間が増えてきている。可能であれば台数を増台させてはどうかと考えている。
- 荒尾市では、総合計画に基づいて様々な取組がなされている。しかし、それぞれの事業の連携が取れていないことと、市外や市民に対して事業や窓口の発信を分かりやすくするなど、やり方に工夫が必要である。更に、行政だけでなく市民の活力をあげるためにも取組内容を共有し、成果検証を行うことで、行政をはじめ各団体の代表の方々にも、どのようにすれば荒尾市の魅力を発揮できるかを考えていただきたい。

## 6. その他

末永課長が、議事録等を市ホームページに掲載するに当たり、内容の確認について協力を依頼した。また、今年度の会議については、国の方で年内に策定予定の「デジタル田園都市国家構想基本方針」に基づき、地方版総合戦略を改訂することとなっているため、1月から3月にかけて開催する可能性がある旨を報告した。

## 7. 閉会

末永課長が、閉会を宣言した。

令和4年度 荒尾市総合計画審議会 出席者名簿

	団体名	役職名	氏名	備考
1	熊本学園大学	元経済学部教授	荒井 勝彦	
2	九州看護福祉大学	准教授	李 玄玉	
3	有明工業高等専門学校	校長	八木 雅夫	
4	荒尾商工会議所	会頭	高木 洋一	欠席
5	一般社団法人荒尾市観光協会	会長	山代 秀徳	
6	玉名農業協同組合荒尾市総合支所	担当理事	隈 学	
7	荒尾漁業協同組合	代表理事組合長	西川 幸一	
8	肥後銀行荒尾支店	支店長	前田 裕規	
9	連合熊本肥後有明地域協議会	議長	馬場 清治	
10	玉名公共職業安定所	所長	平尾 和弘	
11	独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 熊本支部熊本職業能力開発促進センター	荒尾訓練センター長	峯 恭彦	
12	荒尾市教育委員会	教育長	浦部 眞	
13	荒尾市三師会(荒尾市医師会)	会長	伊藤 隆康	欠席
14	荒尾市体育協会	会長	山口 賢一	
15	荒尾市文化協会	会長	井上 泰秋	
16	熊本県宅地建物取引業協会荒尾支部	支部長	下田 次郎	
17	有明広域行政事務組合 (荒尾・玉名地域結婚サポートセンター)	総務課長	城戸 正令	欠席
18	荒尾市社会福祉協議会	会長	丸山 秀人	
19	荒尾市子ども会連合会	会長	橋本 誠剛	
20	荒尾市老人クラブ連合会	副会長	辛島 正春	
21	女性ネットワーク荒尾	代表者会代表	坂田 尚子	
22	荒尾市PTA連合会	理事 荒尾第三中学校PTA会長	大通 恵美	欠席
23	荒尾市行政協力会	会計	林 一夫	
24	荒尾市地区協議会会長会	会長	河部 啓宣	
25	公募委員	—	陣内 透	
26	公募委員	—	甲木 喜一郎	
27	県北広域本部玉名地域振興局	局長	無田 英昭	
28	荒尾市	副市長	田上 稔	

※敬称略、順不同